

いのちと森を守る活動



ダグマ山系森林再生事業
(三井物産環境基金助成・3年計画)

2月と3月の2回に分けて、計11,273本のパラゴムノキの苗木が運び込まれたブラクール村を訪問しました。育苗場は村の中心部と街道沿いの2ヶ所に建設済みです。毎日朝晩2回の水やりは、受益者40名が順番で行っています。



ナーサリー(育苗場)で苗を見守る受益者

受益者から選抜された10名ほどは、コタバト州のパラゴムノキ農園で研修を受けました。苗の育て方、どのように植え付けするか、追肥の時期、病虫害から守る方法などです。

また村で研修を行うための実習小屋の建設も終了しました。木材を助成金で購入、壁の竹材は住民が拠出しました。そして現地で先住民のための識字教育を行っている財団が、トタン屋根を提供してくれました。事業終了後も利用できる強固な建物ができ上がり、毎月ミーティングを開催しています。

心配は、エルニーニョの影響でフィリピン各地で干ばつ被害が起きていることです。ダグマ山系もまったく雨が降らず、パラゴムノキの樹間で育てる予定のピーナッツを蒔くことができません。雨季の到来が待たれます。



木がまばらな山々が、森林に覆われることを想像しながら、村まで歩く



672名を医療支援(1-3月含む巡回診療)
CMIPヘルス担当・ジョジョの報告

* 入院・治療支援患者数106名(内訳:インフルエンザ・肺炎42・高血圧11・脱水症状を伴う急性胃腸炎10・歯痛10・回虫症7・膀胱炎7・皮膚病6・外傷4・アメーバ性下痢3・デング熱3・腸チフス性高熱2・気管支喘息1)

* 受入施設(内訳:ゼネラル・ホスピタル公立病院53名、民間診療所・病院6名、CMIPクリニック47名)
その他の主な活動

巡回診療:1月サムラング村、2月ダタルタイ村、3月タダ村(受診患者566名、うち歯科87名)

CMIP地域医療保険(グリーンカード)料徴収

(1月1,370ペソ、2月1,760ペソ、3月1,610ペソ)

* 特別医療支援:奨学生チャーメイン(ハイスクール〇年)のお姉さんが紅斑性狼瘡という難病で亡くなりました。エリテマトーデスと呼ばれる膠原病の一種です。チャーメインも皮膚疾患など同じ症状がみられるため、今後の観察が必要です。

この活動は月1000円の医療支援
会費が支えています

モロの村の医療活動自主財源事業 (WE21 ジャパンみどり助成事業)

PIHSは過去8年間の協働の中で、8つの村での保健ボランティア育成や6ヶ所の簡易クリニック施設建設など、住民、特に母子の健康を守る成果を上げてきました。今、これらの事業継続に必要な自主財源の確保が課題となっています。

その中で、今年も引き続きNPO法人WE21ジャパン・みどりの助成が決まりました。「モロの村の保健・医療研修とその継続に必要な自主財源創出及び奨学金事業」です。現地では住民への説明会が実施されています。



ふたつの村に水道ができます!

左の記事のように、エルニーニョの影響による干ばつで、数ヶ所あった小さな泉の水も枯れてしまったタンダ村とクルファンディ村。日本国際協力財団の助成が決まりました。5キロメートル先の水源から水を引き、共同水飲み場15ヶ所を建設します。自己資金(松尾基金)と合わせて145万円の予算の事業です。